

野火止用水（1）

10月27日（火） 薄曇り

- ★ 田無駅に集まったのは12名。これだけ大勢が集まったのは今年始めてである。新型コロナウイルスのために思うように外出もできなかったモヤモヤを晴らしたいという気持ち、また気候も良くなって散策には最高に季節になったということも重なったことだろう。
- ★ 午後1時20分に玉川上水駅に到着。駅前を玉川上水が流れている。下流に向かって200mほど行くと小平監視所があって、そのすぐ下が玉川上水と野火止用水の分岐になっている。遊歩道の一画に「清流の復活」と書かれた石碑が立っている。昭和38年（1963）に東村山浄水場が出来たため玉川上水はその役目を終えて水の流れが途絶えていたが、昭和61年（1986）東京都の「清流復活」事業が実施され、小平監視所から杉並区の浅間橋まで清流が復活したのを記念して建てられたものである。この碑の前の階段を降りると上水小橋で、清流を間近に見ることが出来る。



「清流の復活」の碑



上水小橋から玉川上水を見る

- ★ 野火止用水は上水小橋から左へ西武拝島線に沿って流れていたが、現在は用水の上が赤レンガ遊歩道になっていて清流を見ることはできない。遊歩道にはケヤキ、カシ、そして100本以上の赤松があり、実に気持ちの良い散歩道である。小鳥の囀りも賑やかである。



赤レンガ遊歩道



赤レンガ遊歩道に行く

- ★ 赤レンガ遊歩道を 1.2km ほど行くと東大和駅で、右手には東京都薬用植物園がある。駅前で青梅街道を渡り、西武線を越えてしばらく行くと幅 50cm ほどの清流が現れた。流れに沿って様々な草花が植えられ、木漏れ日の遊歩道は実に静かである。東京電力の変電所付近ではホタルを飼育しているようである。



- ★ 東大和駅から 800m ほど行くと、用水は野火止の雑木林の中に入って行く。江戸時代に掘削された当時の様子がそのまま残っている感じで、武蔵野の面影を残す貴重な雑木林である。午後の柔らかな木漏れ日を浴びながら雑木林の中を歩いて行くと、足元でどんぐりがプチプチと弾ける音がする。野火止橋の北詰には用水工夫の像が立っている。



- ★ 野火止の雑木林を抜けると用水の両側は住宅街になる。やがて左に明治学院東村山中学・高校の校舎が見えてくる。校地の一画、フェンス越しに明治時代に建てられた瀟洒な木造2階建ての西洋建築がある。これは元駐日アメリカ大使のエドウィン・ライシャワーの父、オーガスト・ライシャワーが明治学院大学に宣教師として勤務していた時に住んでいた家で、ライシャワー元大使はここで生まれ、17歳までここで過ごしている。建物は1964年に芝白金から移築された。



★ 明治学院東村山中・高の正門前を過ぎると野火止用水沿いの道は人ひとりがようやく通れるような狭い道となる。西武国分寺線の踏切を越えれば九道の辻公園で、藤棚や3基のモニュメントがある水と緑をテーマにした公園である。そして九道の辻は2月の散策でも通った鎌倉街道の中間点で、西武多摩湖線の八坂駅のすぐ前である。午後4時に八坂駅に到着、解散となった。



九道の辻公園にて

4人の俳人から俳句を頂きました。

落とし水 多摩から江戸へ とうとうと

団栗を 二十四の靴 踏みしだき

まさお

よみがえる 玉川清き 水の秋

山茶花の 高き垣根や 洋学舎

志賀 勉

緑道に 木漏れ日差すや 木の実落つ

行く秋や 清き用水 鯉遊ぶ

辻 直邦

秋天を 直行するや モノレール

野火止や 江戸清らかに 秋の水

秋夕焼 赤いレンガの 遊歩道

桑田青三

・参加者 金児利行、金子正男、桑田制三、小島恕雄夫妻、志賀 勉、辻 直邦、
原田一彦、水野聰夫妻、臼井静江、中村仁美 以上12名

写真と文 小島恕雄